

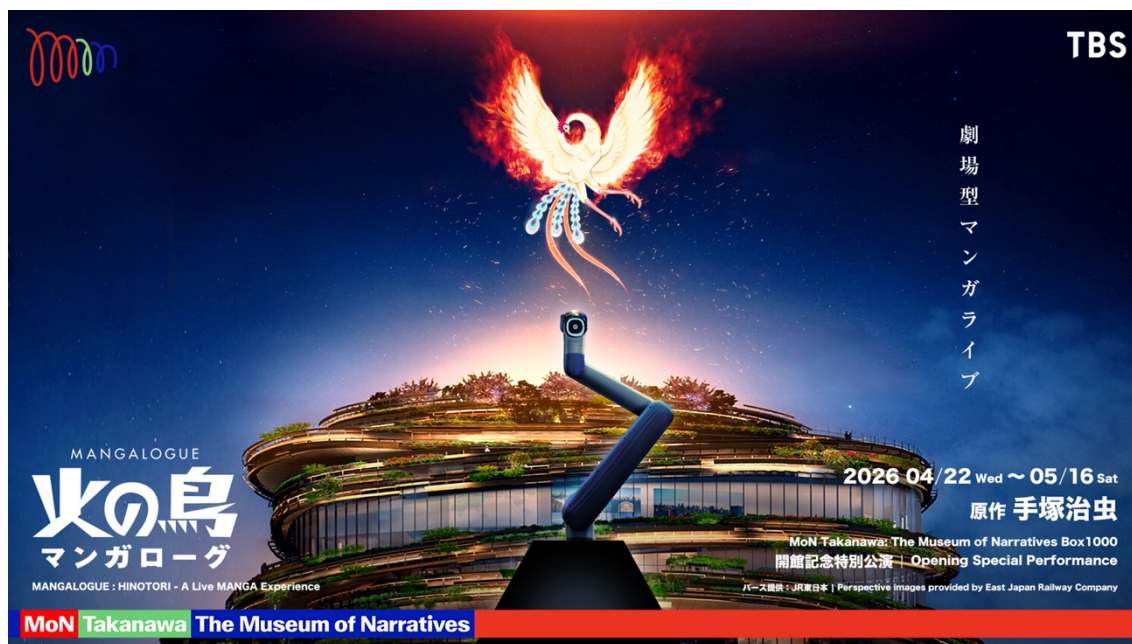
2026 年 2 月 9 日

一般財団法人 JR 東日本文化創造財団  
MoN Takanawa: The Museum of Narratives  
TBS

**2 月 9 日 は「マンガの神様」手塚治虫氏の命日であり「漫画の日」  
あなたのマンガ体験をアップデートする最新情報**

MoN Takanawa: The Museum of Narratives 開館記念特別公演  
本公演のために着彩された手塚治虫氏「火の鳥」の原稿を大迫力で体感！  
**マンガを"浴びる"新しいライブ体験**  
**「MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥」 詳細発表**

2026 年 3 月 28 日（土）に TAKANAWA GATEWAY CITY に開館となる、文化の実験的ミュージアム「MoN Takanawa: The Museum of Narratives（モン タカナワ: ザ ミュージアム オブ ナラティブズ、以下 MoN Takanawa）」（運営：一般財団法人 JR 東日本文化創造財団）および TBS は、手塚治虫氏の命日であり「漫画の日」である本日、開館記念特別公演「MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥」の詳細を発表します。



MoN Takanawa オリジナルの「MANGALOGUE（マンガログ）」は、マンガそのものを大型映像に映し出し、サウンド、光、テクノロジー演出、そしてライブナレーションが融合することで、観客全員を物語の世界へと没入させる、新しいマンガ体験です。

本公演では、マンガを映像や舞台作品に置き換えるのではなく、ページを読み進めていく流れそのものを上演のしくみとして扱います。舞台となるのは、巨大LEDを備えた1,000㎡のシアター空間「Box1000」。マンガの絵や言葉、コマの並びを時間の流れに沿って映すことで、観客は物語が進んでいく過程をその場で追体験します。

舞台のナビゲーターは、先端にカメラを備えたロボットアーム。まるで命が宿ったかのようにマンガのコマを追いながら、その視線を巨大LEDスクリーンへと映し出していきます。通常は一人で読むマンガを、ここではその場にいる全員で同時に追い、一緒に物語を体験し、共有します。



上演する作品は、手塚治虫氏の不朽の名作「火の鳥 未来編」。“電子頭脳”が支配する西暦3404年を舞台に、火の鳥によって“永遠の命”を受けられた主人公、そして火の鳥とともに、人類の文化、そして文明の行きつく先を辿り、「いのち」について考えます。1967年に発表された本作は、まるで“現代の預言書”のように、今、AIや環境問題に直面する私たちに「生き方」を問いかけます。

公演には、手塚プロダクションにより、LEDシアターでの上映を前提として新たに着色された100枚以上の着色原稿を使用します。約60年前に描かれた白黒原稿をもとに、原作の線やページ構成を尊重しながら、元アシスタントの手によって、一枚一枚にあらためて色彩が施されています。マンガの絵が紙面とは異なるスケールと環境で提示されることで、線の力や色の広がりを、これまでとは違う距離感で体感することができます。



世界が注目する日本独自の文化である「MANGA」。その原点であり、「マンガの神様」である手塚治虫氏も、常に新たな表現手法や取り組みに挑戦し、開拓者精神を持ち続けて、文化を切り拓いてきました。100 年先に向けて、新たな文化を創造することを目指す MoN Takanawa は、その手塚治虫氏の意味を受け継ぎながら、次の時代に向けて MANGA 文化の新しい体験を生み出していきます。

「想像の力こそ、人類ゆえの最高に輝かしいエネルギーなのです。」

——手塚治虫（『ガラスの地球を救え』より）

本作には、マンガの物語を彩る豪華声優陣、そしてロボットアームとともにマンガを読み進めるキャスト「MANGALOGUER（マンガローガー）」が出演します。2 月下旬より順次発表いたします。

最新情報は公式サイトにて順次公開してまいります。

## ■原作について

### 手塚治虫氏 プロフィール



1928 年生まれ、1989 年没。

日本のマンガおよびテレビアニメーション文化の基礎を築いた、日本を代表するマンガ家であり、その革新的な功績から「マンガの神様」と称されている。

映画的なカメラワークを思わせるコマ割り、豊かな感情表現、そして長編による重層的な物語構造をマンガに持ち込み、新しい表現領域を切り拓いた。

『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『ブラック・ジャック』『火の鳥』など数多くの代表作を通して、生命の尊さ、人間の在り方、科学と倫理といった普遍的なテーマを描き続けた。

その影響は世代や国境を越え、現在のマンガ・アニメーション、さらには映像表現全体にも及んでいる。手塚治虫の作品は今なお読み継がれ、創作の原点として国内外で高く評価されている。

### 「火の鳥 未来編」について



画像提供：朝日新聞出版

「火の鳥 未来編」は、全 12 篇から構成される『火の鳥』シリーズの一篇。シリーズの中でも最も先の時代となる、西暦 3404 年以降の世界を舞台としている。本作は 1967 年に発表され、地球環境の荒廃や人類社会の変質、人工生命の研究などを背景に物語が展開される。

作中では、AI やクローン技術を想起させる要素が描かれており、当時の科学観や未来像が反映されている。過去から未来へと連なる『火の鳥』全体の構成の中で、「未来編」は人類の行き着く先を描くエピソードとして位置づけられており、その影響は世代や国境を越え、現在のマンガ・アニメーション、さらには映像表現全体にも及んでいる。



## ■プログラム概要



MANGALOGUE（マンガログ）：火の鳥

【日程】2026年4月22日（水）～5月16日（土）

【会場】Box1000

【主催】MoN Takanawa: The Museum of Narratives  
TBS

【企画制作】MoN Takanawa: The Museum of Narratives/  
TBS/Bascule Inc.

【原作】手塚治虫「火の鳥 未来編」

【制作協力】手塚プロダクション

※手塚治虫/手塚プロダクションの「塚」について、正しい表記は旧字体。

【チケット料金・販売スケジュール】2月10日（火）発表予定

## ＜今回の舞台となる MoN Takanawa のシアター空間「Box1000」＞



Box1000 は、ステージ全面に LED が設置された最新のシアター空間。多様なプレイヤーと共に、挑戦的な文化創造を後押しする技術や仕掛けを多数搭載しています。映像・音響・舞台機構・情報通信技術そして、多様なジャンルが融合した日本初のコンテンツを生み出す準備を整えました。

## ＜公式ホームページ＞

[https://montakanawa.jp/programs/mangalogue\\_hinotori/](https://montakanawa.jp/programs/mangalogue_hinotori/)

## ＜本件に関する問い合わせ先＞

MoN Takanawa: The Museum of Narratives PR 事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：鈴木結理（080-4652-1713）／佐藤若菜（080-4652-1425）／飯塚／阿部

MAIL：[montakanawa\\_pr@ssu.co.jp](mailto:montakanawa_pr@ssu.co.jp)